

「先輩の実績は後輩へのプレゼント！」

後輩の実績は先輩のステイタス！」

という思いを込めて、みなさんに贈ります。

昨年度入学した先輩から君へのメッセージ集

『この一年間で私は…』

大阪学園大阪高等学校 第七十七期生（二〇二二年度入学）

探究コース

『変化』

佐々木 美和 (豊中市立第十二中学校出身)

私はクラスメートの事が嫌いでした。新しい出会いなどが苦手な自分には、高校は地獄のような場所でした。もう自分が高校生になったという事を受け入れることができず、大阪高校や同じT組のクラスメートなど、高校に關するすべてのが大嫌いでした。当時の自分は中学校の頃の友達や、当時の優しい先生達などに依存をしていたのだと思います。学校が終わったら、走って家に帰るように教室を出ていたり、休み時間はずっとヘッドホンをつけてクラスメートに話しかけられないようにしたりなど、恥ずかしい話ですが、必死に人間関係を避けていました。

そんな自分が、今はクラスメートと一緒に遊びに行くまでの仲になれたのは、探究のグループワークがあったからだと考えています。最初の探究のイメージは、「クラスメートや大人と会話をしなきゃいけないくて、めんどくさい」でした。人と話すのが苦手な自分には、とても無理だと考えていましたが、今ではクラスメートとたくさん話をして、より良い答えを導き出そうとするグループワークが大好きです。

『うちの塾生』

西中 聖虹 (大阪市立下福島中学校出身)

私は、中学生の頃から、「興味があってもやる気が出ないこと」は極力避けて生きてきた。例えば、友達に「一緒に委員会と部活をしようよ。」と誘

われても、それらは、私にとって「興味はあるがやる気が出ないもの」だったため断っていた。そうして逃げ続け、早くも高校一年生の二学期を終えようとしていた。高校に入っても部活をしていなかった私は、学校からの帰り道、ふと、このままで本当に自分は良いのかと疑問に思った。何のためにこの学校に入ってきたのか。何かを成し遂げた時の達成感も味わう事なく、高校生活を終えていいのか。しばらく自分自身と向き合った後、ひとつの答えに行き着いた。

それから私は、興味のあるラボに参加するようになった。また、二年次からオープンスクール委員会に入ろうと思っていたので、委員会に入っている子に話を聞き、作業も手伝わせてもらった。すると、自分が思っていた以上に楽しかったのだ、今までの私の行動が悪かであったことに気づいた。私の変わったことは人に比べれば少ないかもしれない。しかし、少ない中でも自分と向き合うことで得られた「私なりの答え」があった。それは、どんなに小さなことでも興味を持ったなら挑戦をすること。これを三年間大切にしながら過ごしていきたい。

『対話』

南井 真帆 (大阪市立天王寺中学校出身)

この一年間で私は、様々なことを経験しました。探究活動やオープンスクール企画運営委員会、生徒会など多種多様な経験をする中で、私にとって「対話」は重要な存在であることに気がつきました。

入学したての頃は「対話」とは他者と行うものだという印象が強かったのですが、探究基礎の授業の中で、探究活動のプロセスの全ての場面で対話に関わっていることを知り、対話を行っていき、「対話」とは他者と関わり

きの「他者と自分の対話」だけでなく、あることについて探究している（考えている）時の「その物事と自分の対話」、振り返りを行っているときの「過去の自分と現在の自分の対話」「意識していたことと無意識の対話」など様々な種類や意味があり、重要な存在だと「対話」というものの捉え方が変化しました。捉え方が変化したことで普段の学校生活などの様々な場面において「対話」を意識して行動することを心掛けるようになりました。

高校で自分とは違う様々な価値観を持った人と関わることが多くなり、私はよくその考え方や自分が大切にしてきた価値観や違いに対しての疑問が溢れ、悩むことが増えました。しかし、「対話」を通して、広い視野で相手とも自分自身ともしっかりと向き合い前向きに学ぶことができ、これからは繋いでいくことが出来ていると思います。これからも「対話」を大切にして学校生活を送っていきたいです。

文理解進コース

『一年の変化』

土屋 稜太 (吹田市立高野台中学校出身)

私がこの一年を通して変化したことは、今までやってこなかったことに挑戦するようになったことです。

入学当初までは、何かを始めるときに自分の中にあるのは、「挑戦」よりも「不安」や「失敗」でした。しかし、ある事をきっかけに少しずつ自分の中で挑戦の意味が変わっていきました。始まりは、オリエンテーション学習合宿でのプレゼンでした。四人で一つのグループになって一つのテーマについてまとめ発表をするとき、全員初対面で話すのが難しい中、自分から話したり、まとめたりして積極的に取り組みました。その結果、自分の違う一面を見られて挑戦してよかったと思いました。

また、この挑戦を加速させる出来事もありました。それはオープンスクール企画運営委員会での舞台発表です。最初はグループ内で二人ずつ一回「こと」にやっていくことになり、二回目のときに舞台発表をすることを決意しました。この舞台発表のためにたくさん台本や声のトーンなど本番まで調整して、本番で成功することができました。まさか八百人の前で発表することになるなんて、一年前の私は考えもしませんでした。

この一年間の成長は、これから生きていく中で自信につながると思います。今後もいろんなことに挑戦しようと思います。

『変化した一年』

萩原 伶愛 (吹田市立第五中学校出身)

私はこの一年で自ら学ぶことの楽しさを知りました。中学のときの私は、親に言われて勉強をすることばかりで自分から勉強するということがありませんでした。しかし、大阪高校に入学し、自ら勉強をするようになりました。それは、頑張ったらその分、結果につながると気づいたからです。自分の立ち位置を知ることができ、頑張ると順位が上がリ、目に見えて結果が分かります。それが勉強することへのモチベーションになり、自分から勉強することにつながりました。また、順位が上がると友達にも褒められ、次も頑張ろうと思うことができました。

他の人に言われて勉強していたときは勉強が苦に感じていたけれど、自ら勉強するようになって苦に感じなくなったことが、この一年間で大きく変化したことです。

『努力』

福盛 圭奏 (豊中市立第七中学校出身)

この一年で私は友だちと共に一緒に努力する楽しさを知りました。高校生になってから勉強する気持ちがなく、毎日自分の点数を見て落ち込んでいました。しかし、二学期に入ってから友だちと放課後に勉強をするようになり、点数もちよつとずつ上がるようになりました。友だちと教え合ったり、目標を言い合ったりと私は努力する楽しさを知れました。

まだまだ努力できていない所もありますが、昔の頃と比べればとても成長できたと思います。今後の目標は、数学を克服すること、成績を上げるこ

とです。私は数学が一番苦手なので、数学が得意な友だちや先生に教えてもらい克服します。また成績を上げるために毎日コツコツと勉強をする癖をつけていきます。授業の復習などたくさんやらなければならないことがありますが、未来の自分のために今頑張りたいと思います。

『一歩踏み出す勇氣』

堅本 迅（大阪市立東淀中学校出身）

私は、中学生から続けている陸上競技をするために大阪高校に入学しました。中学生の頃は学校の中でも足が速い方だったので、もっと速い人と勝負をしたいと思っていました。入学すると、大阪高校は想像よりもはるかに強い学校で、最初は少し気が弱くなってしまうました。しかし、速い人たちの動きを見たりアドバイスをもらったりして、自分の動きを良くしていき、速い人たちと戦っていけるようになることを目標に日々努力していきました。例えば、走るメニューの時は積極的に自分より速い人や同等レベルの同級生や先輩に勝負を挑みました。他にも、同級生と出来ているところ、出来ていないところを教えあったりすることで、成長していくことが出来ました。

私は、このような経験から、最初は気が弱くなって何もできなくても、一歩踏み出して先輩や同級生と勝負したり教えあったりすることの大事さを学ぶことが出来ました。これからも大阪高校で一歩踏み出す勇氣を大切に何事にも恐れず挑戦しようと思います。

『想像よりずっと短い一年』

村上 咲椿（大阪市立新豊崎中学校出身）

私はこの一年で本当に様々な経験を積むことが出来ました。色々な新しいことに巡り合えたことで、充実した学校生活が送れ、長いはずの一年がとても短く感じました。

まず新しく経験できたことは部活動です。私は和太鼓部に入学して、初めての経験、初めての感情、新しい出会いがありました。和太鼓というなかなか

か触れることのできないものに触れるという体験、大きな大会に出て優勝を目指すという体験、その大会に出るための選抜を受けるという体験など本当に色々なことを経験しました。これらの経験からたくさん感情を知ることが出来ました。また、この経験すべてに壁が無かったわけではなく、壁を乗り越えようとする努力をしました。努力を怠らないことで自分の成長に繋がりました。

このように色々な経験や出来事があったから長い一年が短く感じたのだと思います。二年生になると、もっとたくさん「したいこと」の他に「しなげればならないこと」が増えていくと思います。今よりも一年がさらに短く感じるかもしれません。だからこそ、今できることを全力で、一つ一つを思い出しにしていきたいと思います。

『感謝』

中川 古都音（吹田市立第三中学校出身）

私は日本拳法部に入るために大阪高校へ入学しました。高校での練習は今までよりも厳しいですが、とても学ぶことが多いです。

大阪高校に入って初めての個人戦は、全国への出場がかかっている大会でした。そこでは、緊張することなく練習の成果を出すことができ、全国大会の出場を決めることができました。しかし、準決勝で負けてしまい、次こそは勝てるようにと私はリベンジをするために練習に励んでいました。

全国大会に向けての最後の練習で、私は膝を怪我してしまいました。試合に出ることができず、復帰に半年かかり、手術も必要だと言われ、落ち込んでいました。しかし、部活のコーチや先輩、先生方、家族、友人に支えてもらいながら進むことができています。周りの人に恵まれていることや、その

人達の大切さを知ることができ、私は当たり前前のが、実は当たり前でないことを実感しました。

怪我を通して、日常に感謝し、支えていただいた人達にも感謝できるようになりました。そして、次こそは全国大会に出場して優勝し、恩返しができるようにこれからも頑張っていきたいと思えます。

『気づき』

中田 一輝 (大阪市立瑞光中学校出身)

この一年間で私は、たくさんの方に気付かされました。それは、この大阪高校に入学していろいろなことに挑戦できたからだと思います。とくに、生徒会への挑戦は一番刺激的でした。

私はこれまで、生徒会というものにあこがれや興味はありませんでしたが、「何か変わりたい」と思って生徒会に立候補しました。無事に当選したときはすごくうれしくて、ホッとしました。生徒会に入ってからの日々は、とても刺激的です。正直、私が想像していたよりはるかに忙しいです。しかし、その分得られるものが多く、貴重な体験をさせてもらっています。

昨年はいろいろなことに挑戦できましたが、付け焼刃な部分もあったと思います。今年は挑戦してきたことをもつと突き詰めていければと思います。

『成長できた一年』

奥山 貴矢 (吹田市立第六中学校出身)

私は高校生になる前まで、自分から行動するというのがとても苦手で、部活動では先輩や後輩にもたくさん迷惑をかけていました。しかし、大阪高校の陸上部に入り、自分から率先して行動することの大切さを知ることができました。それは、行動してみないとわからないことです。中学校と高校では部活に対する意識がとて変わわり、しんどい練習は人一倍頑張る、どこを意識すれば速く走ることができるのかなどを考えて練習できるようになりました。今までの自分は、「しんどいメニューは楽にやる。別にやるだけでいいや」などいい加減な気持ちでやって、できないものは100%できないと思っていた

んで挑戦することも諦めていました。しかし行動することで意識が変わったり、新しいことたくさん知れたり、高校生になり陸上生活がとても楽しくなりました。

この成長を次の学年になっても継続していき、後輩もできるので今より成長できるように、行動を見直し意識を変えられるようになっています。

『学んだこと』

山村 悠斗 (大阪市立南港北中学校出身)

私がこの一年間大阪高校で学んだことは、「一人としての成長」と「感謝の大切さ」です。私が中学生の頃は、周りの人に対してあまり関心がありませんでした。大阪高校に入学してからは、授業中に周りの人と話し合う機会や一つのことに對してグループに分かれて調べて発表することが多く、周りの人への関心が高まっていき、周りを見ることでより広い視点から物事を判断できるようになりました。

「感謝の大切さ」は、日々の部活動で学びました。私はサッカー部に所属しています。部活をしたと思うっていても親の支えがないと成立しません。日々お弁当や合宿費などいろいろと負担をかけています。親が体調を崩してしまつたときに、毎日家事をするのは大変だと感じて、日頃から感謝を言葉にしようと思つて決めました。

『成長』

上田 孝介（摂津市立第一中学校出身）

この一年で私は大きく成長することができました。入学してすぐ、小中とはちがって全く知らない人ばかりの環境にとてもワクワクしました。いろいろな地域から来た人、多様な価値観の人がいて、最初はみんなのノリの違いに戸惑いましたが、どんどんわかるようになって仲が深まりました。相手のことを理解するために知らないうちにコミュニケーション能力が向上したと思います。勉強は中学よりも難しくなり、一学期最初のテストでは点数もフランスの順位も思うように取れませんでした。そこから毎回のテストで勉強するようになり、順位も大きく上がっていきました。このことに関して振り返ると、順位が上がったことよりも勉強習慣がついたことに喜び、成長を感じられました。部活動では陸上部に入り、周りが格上の環境での活動で、競争することの楽しさと悔しさを学んでいます。これらのことを通して、一年間私は成長し続けることができました。

『EPAU』

新谷 青空（茨木市立北陵中学校出身）

この一年で私は大きな成長ができたと思います。入学して間もなくたくさんの友達、先生に出会うことができました。そんな中で大きく私が成長できた出会いがありました。それは科学探究部とROOTPプログラムです。科学探究部では学びに対する姿勢、研究するための基礎、そして何よりも人間性を学んでいます。ROOTPプログラムでは国際的な交流、思考力を鍛えることとの大切さを知り、大学教授のもとで研究をしてきました。この出会いがあっ

たから私は勉強と真剣に向き合い、自分と向き合うことを意識することができました。時には苦しくてすべてをやめたくて泣いた日もありました。その時に助けてくれたのは先生や尊敬している人たちです。先生、友達、両親とその人がいたから今の私がいると思います。これからもたくさんのお会いに感謝し、そして私自身が誰かの良い「出会い」となれるように頑張っていきます。

『吹奏楽を通して』

井澤 友馨（茨木市立東中学校出身）

私は、中学から吹奏楽部に入り、パーカッションを続けてきました。しかし、高校に入ってから中学とは変わったことがあります。それは「部活」に対する気持ちがより真剣になったことです。今までは「楽器」が好きだから「部活」に入っているという関係性だったのが、高校に入って「楽器」も「部活」も同じくらい好きになりました。部活の時間・人間関係といったすべてが大好きになりました。中学時代、人間関係に苦手意識のあった私がここまで変わったのは大阪高校の吹奏楽部に集まった仲間が明るく面白い人たちだったからだと思います。

私はこの恵まれた環境をいかして、より一層吹奏楽部での部活動に励もうと思います。演奏を上達させるだけでなく吹奏楽を通して、人として慕われるような先輩に成長していきたいと思っています。

『臆せず挑戦』

中村 紅翔（堺市立金岡南中学校出身）

私にとってこの一年間は「挑戦」の年でした。私が所属している陸上競技部には、試合で優勝や入賞をするような選手が沢山います。自分と同じくらいの走力の選手と走る時はもちろん、自分よりも遥かに速く強い選手と走る時でも勝つ気で挑戦し続けました。負けることの方が多かったですが、改善点や速い人と自分との差など得られるものも沢山ありました。この一年間は試合でも負けることが多く、挫けそうになった時もありましたが、その時は、この辛い時期をどう乗り越えるのか自分に挑戦することで早く立ち直ることができ、自分としっかりと向き合ったことで以前よりも前向きに頑張れるようになったと思います。また、勉強面でも沢山挑戦しようと努めました。例えば、数学で分からない問題や、問題文が長く解く気にならないような問題でも諦めずに解いてみることでどこが分からないのかを知れたり、効率よく問題を解き進める方法に気づき、勉強面でも沢山得られるものがありました。様々なことに挑戦することで色々な事に気づき、学ぶ事ができました。また、挑戦する事の大切さを身をもって知れたのでこれからも何事にも臆せず挑戦して成長していきたいです。

『主体的にチャレンジし続ける三年間』

三木 紳太郎（西宮市立大社中学校出身）

この一年間、私自身少しは主体的な自分になったのかなと思います。私が高一のオープンスクールに来た時、「主体的になろう」「この三年間とことんチャレンジし続けていこう」「失敗を恐れるな」などと話していたのが

胸に響き、こんな目標を立てました。この三年間を主体的にチャレンジし続ける三年間にしよう。そう決めた私は、「代議員」や「OS委員」「ポランティア」「生徒会」など多くのことにチャレンジしてきました。正直これらのことは中学生の私ならやらなかったことであり、ましてや高一来なければ一切関わりのない事だと思っていました。しかし、今では生徒会副会長という立場です。今までチャレンジしてきて失敗したこともあり落ち込んだこともありましたが、しかし、私は諦めずにチャレンジし続けてきたからこそ、今があると思っています。もう少しで二年生になります。しかし、まだ二年生です。残りの約二年チャレンジすることを忘れず、頑張っていきたいと思います。

『一年の変化』

北崎 絢楓（大阪市立三国中学校出身）

私は一年を通して変化したことが二つあります。一つ目は「将来について」です。中学まではなりたい職業もなく、将来について全く考えていませんでした。大阪高校に入り直ぐに将来について考えることがあり、初めは将来の夢を探すのに大変でした。しかし、何回も将来のことを考える時間があり、ちゃんと自分に向き合い、なりたい職業を見つけることが出来ました。二つ目は「家族との関係」です。これまで家事などを親がするのが当たり前だと思っていました。入学したての時にずっと「主体的に行動する」と先生たちがおっしゃっていて、自分から何かしてみたいと思うようになり、少しずつ家事を手伝うようになりました。すると家事の大変さを知ることができ、仕事で疲れて帰って家事をこなす母親がすごいなと思うようになりました。少しずつ洗いや掃除をしたり、掃除をしたりして家事をするを必ず「ありがとう」と母親が言ってくれてすごく嬉しかったです。それから、ご飯を作ってくれ

たときや仕事から帰ってきた時には「ありがとう」「お疲れ様」などを言うようになり、家族ともっと仲良くなれました。これが一年の変化です。これからも家族や自分の将来のことを考え、何事にもチャレンジしていきたいと思えます。

『意識の変化』

村上 秋声（茨木市立北陵中学校出身）

大阪高校に入学して一年、あつという間でしたが、自分の中で変化があったなと思うことが二つほどあります。それは、校外での課外活動や勉強に対する意識の変化です。自分は元々何にも消極的で自分から動くことが苦手でしたが、そんな自分を変えてくれたのが、課外活動でした。私は放射線に関する研究で大阪公立大学で他の高校の人たちとお互いに研究結果をプレゼンし合いました。他にもVRの化学実験など、中学の頃からは想像も出来なほど自分の中では充実して過ごせたと思います。勉強についての意識の変化は、中学の時にはテスト勉強すらほとんどまともにやっつてこなかった自分が自学自習を継続してできるようになったことです。テストの時には順位が貼り出されるので、勉強したら順位が上がっていくのがモチベーションになっていました。そのおかげで放課後に友達と一緒に勉強したり、家でも十時までは勉強をすると決めたりと勝手に習慣になっていきました。これが私の一年での変化です。二年生ではもっと多くのことに挑戦できるようにしていきたいです。

総合進学コース

『一步』

大竹 悠琥（茨木市立天王中学校出身）

この一年で私は、最初に踏み出す一步が大事だと気がきました。例えば部活選択、友達作りなど様々な場面で一步を踏み出す時がありました。部活選択では、私は中学の時に野球をしていたので野球部に入ろうと思っていましたが、きつい練習があると思うと、尻込みをしまいました。今ではとても後悔をしています。友達作りでは、しっかりと一步を踏み出すことができ、仲の良い友達ができました。

この一年間を振り返れば、部活選択、友達作り以外にも一步を踏み出す場面がたくさんあったと思います。大きな一步ではなくても最初の一步をひとつずつ地道に歩いていくことにより、少しずつ自分を変えていけるようになりました。

このことは、高校を卒業してからもずっと重要で必要なことだと思うので、いつまでも大切にしていこうと思います。

『変化』

河崎 蒼空（豊中市立第二中学校出身）

私は、中学の頃から嫌なことがあるとすぐ投げ出す癖があり、長続きすることが出来ませんでした。でも、今は嫌なことと向き合うようになったのは私からみれば大きな成長だと思っています。

次に、考え方が変わりました。中学の頃は出来ないことや嫌なことはすべ

に「もついいや」と諦めていました。しかし、今はとりあえず嫌なことにも向き合ってどうしたら嫌ではなくなるか、プラス思考になれるかを考えるようになりました。例えば、怪我をして運動ができないから部活もできないし行かなくてもいいやと投げ出すのではなく、どうしたらもっと頑張れるのかを考えようと、考えるようになったということです。

このように、考え方を変えらるともう少し頑張ろうと前向きになれたと思います。

『昔の自分と今の自分』

与儀 愛理（高槻市立第二中学校出身）

この一年で私は人との関わりや日々の生活においてたくさん成長することができました。私は昔から、今でも人前に出て発表をすることがとても苦手です。昔なら緊張で前にも立てず泣いてしまったり逃げてしまったりすることが多くありました。しかし、今の自分は緊張はしてしまっけど前に立つて発表をするという大きな壁に向かって頑張れるようになってきました。そんな自分を変えてくれたのは、新しく出会った先生方や友達です。先生方は何かを言うのではなく、ただ優しく見守って下さり、友人は「頑張れ」や「愛理なら大丈夫」と応援をしてくれて、優しく支えてくれます。

私は、この一年でたくさんの方との出会いを通して成長することができました。二年生でも新しい出会いを通して少しずつ成長していけたらいいな、と思います。

『この一年で出会えたもの』

熊本 紗映 (渋谷区立広尾中学校出身)

私はこの一年間がこんなに充実したものになるとは予想もしていませんでした。

中学から高校で周りの環境が変わったため、友達ができるのか、勉強はついていけるのか、不安がたくさんありました。ところが、この大阪高校には多くの人がいて、様々な個性を持った人がいます。話しやすくすぐに仲良くなる子もいれば、少しずつ仲良くなる子もいて、時には人間関係が悩みになったりしました。

そんなときには多くの先生がいます。親しくくださる先輩がたくさんいます。先生の紹介で今の部活を知り、その部活で友達と先輩に出会うことができました。そんな「出会い」をくれたこの学校と先生に感謝を伝えたいです。そして、諦めないことを目標に二年間過ごしていきます。

『一年間を振り返って』

寺島 好香 (守口市立八雲中学校出身)

この一年で少しでも変わったことは、いろんなことに挑戦するようになったことです。

中学の時は、委員会活動や何かしらの検定などに積極的に参加することが少なかったです。でも、この高校に入ってから、オープンスクール企画運営委員会をはじめ、外部の人がお話ししてくださるラボなどに積極的に参加しました。

特に、英語のスピーチコンテストに挑戦することは私にとって、とても良

い機会になりました。先輩のスピーチだけでなく他の高校の人たちのスピーチを聞いて、もつとがんばらないと、という気持ちにもなりました。

二年生になってからも、どんどん挑戦して後悔の残らないように過ごしていこうと思います。

『意識の変化』

森垣 凜太郎 (茨木市立天王中学校出身)

私はこの一年間で考え方が変化しました。高校に入学し、自分の甘さや弱さに気づくことができました。中学のころは野球部で与えられたことを全力ですることが部活だと思っていました。しかし大阪高校に入学し、陸上競技部に入部をし、自分自身の限界に向き合うことができました。同じ部活内にも自分よりも速い人が多く、目標にすべき先輩や同期がたくさんいるおかげで、自分自身のモチベーションにもつながります。また、わからないことや技術面のことだけでなく、人としての成長を先生方に教えていただきました。一年間、全力で取り組んでいく中、うまくいかなかったことも多くありました。しかしこの経験を通して、自分のペースで最後まで努力し続けます。

『この一年で私は』

足立 潤幸 (池田市立石橋中学校出身)

私は、中学校の頃にあまりポジティブではなく、別に静かだったわけではなかったんですが、周りに合わせる事が多く、自分を好きではなかったです。そういうところもあり、休むことも多かったのですが、高校に入り、最初は中学の頃のようにしておけばいいと思っていました。しかし、徐々に慣れていき、今まで関わってこなかったような友達や、中学時代の友達に似ている友達などが、新しい高校生活という中で、辛いこと悲しいことなどがあるときに、本気で助けってくれたことがありました。もちろん、嬉しいとき、楽しいときには一緒に同じ気持ちを分かち合いました。そんなことを重ねていくことでポジティブになり、本当の自分を出せるようになりました。そんな自分のことを好きになる事ができ、さらに自信もつきました。これからも辛いことや悲しいこと、不安なことなど多く経験すると思います。ですが、この一年のおかげで中学のころから成長でき、これからの「壁」にも立ち向かい、乗り越えていこうと思っています。

『この一年で私は』

泉谷 舞 (高槻市立第六中学校出身)

私は大阪高校に入学してからの一年間、様々な経験をさせていただくことができました。そんな沢山の経験の中で、私はチャレンジ精神がとても身についたと思っています。

これを感じ始めたのは、一年生の後半ぐらいからです。最初の一学期、二学期ぐらいまでは部活でも積極的に活動できていませんでした。オープンス

クール企画運営委員会の募集を聞いても「周りがやらないから」と怖くて挑戦することができませんでした。でも、ある日を境に何事にも恐れることなく挑戦できるようになりました。それは探究コースの体験に参加したことです。最初は不安で怖かったけど、みんなフレンドリーに接してくれました。探究コースには入りませんが、探究コースのみんなの積極性の影響を受け、オープンスクール企画運営委員会に入ってみたり、探究アンバサダーに入ったりなど、色々なことにチャレンジすることができました。この精神を、残りの二年間の高校生活でさらに高めていきたいです。

『おもしろい』

中川 愛梨 (大阪市立瑞光中学校出身)

私はこの一年間で思うことは「おもしろかった」です。私はあまり友達をつくるのが得意ではなく、私の中でクラスの人とも馴染めずずっと一人であるのかなど不安でいっぱいでした。ところが、私が思っているよりもみんなとても優しく、私が困っていたら優しく助けてくれたり、球技大会で競技中に失敗した時も「ドンマイ！、大丈夫やで！」と声をかけてくれました。私はこのみんなと一緒に球技大会に参加できてとてもよかったですと感じました。授業中も先生方の話がおもしろくて、進路で悩んでいるときも、大学や専門学校との連携講座であるラボやコラゼミへの参加をすすめてもらい、その体験がとてもおもしろくて、以前の私には、この仕事は私には難しくてできないかな〴〵と思っていることにも前向きに考えることができるようになりました。私はこれまで後ろ向きに考えがちでしたが、大阪高校に入学してからはいろんなことを前向きに考えられるようになりました。これからは私がしてもらったことをみんなにお返しして、この学校がおもしろいと感じ

る人を増やしていきたいな、と思いました。

『この一年での変化』

上田 琉生 (門真市立第二中学校出身)

この一年間で私は、周囲からの期待の重さと、気持ちの持ち方について学びました。私は、硬式野球部に期待されながら入部しました。今まで人生で期待されることがあまりなかったので、この期待をとて重く感じました。最初は、その期待に応えようと無理をして、気持ちがボロボロになっていて、成績もそれに重なるように不安定になっていきました。

しかし、ここで私は、ある重要なことに気づきました。それは、期待の大きさとというのは、自分の価値だということ、そして気持ちの持ち方が大切だということなのです。

私は、その二つのことを秋の大会で気付くことができました。私は夏・秋と背番号をもらい秋には、主に先発を任されていました。しかし、周囲の期待と緊張に押しつぶされて、思ったように投げられず、野球を辞めようとも考えました。しかし、逃げたくないという気持ちが勝って自分と一度向き合いました。そして、そこに至った結論が前述の通り、期待の重さは自分の価値だということ、そして何事も気持ちの持ち方によって変わるということでした。そこに気付けたおかげで、立ち直ることができました。もし、また同じようなことが起こっても、思い出して頑張ろうと思います。

『変化』

栗原 歩汰 (大阪市立東淀中学校出身)

私は大阪高校に入学して、様々な変化がありました。

まず、勉強面の変化です。それは、学ぶことが楽しいと思うようになった

ことです。

それは、英語を学ぶことで、様々な洋楽や洋画などへの理解が広まったり、数学を学ぶことで、日常生活の計算力が高まったり、国語を学ぶことで語彙力が上がったたり、学習したものを日常生活に転用することができるといふことを知り、学習が楽しくなりました。

次に、人としての変化です。

昔から私は、相手の気持ちや考えをくみ取ることが苦手でした。ただ、大阪高校で人とのつながりが増え、いろいろな事で苦しんでいる人を見る度、その人に寄り添うということを意識して行動しました。そして人を思うことが、苦手でしたが行動できるようになりました。

最後に、自己表現についてです。

大阪高校では、発表の機会が多く、その上、私が所属する演劇部での活動もあり、私の夢である声優への一歩である自己表現ができるようになりました。

残りの二年間も、自分の夢に向かって走り続けようと思います。

『考え方で自分は変わる』

中野 月輝矢 (大阪市立大桐中学校出身)

この一年間で私は大きく変わりました。

私は中学のときから自分の考えを指摘されたりすることがとても嫌で、「なぜ自分の考えに対して首を突っ込んでくるんだ」と常日頃思っていました。

しかし、大阪高校に入学し、新しい友達、先生などと話をしていくにつれ、「こういう考え方もあるのか。」と他の人の意見を少し受け入れられるようになりしました。

そうすることで自分に変化が生まれました。例えばテスト勉強のときに他の人の勉強法を取り入れることで高得点が取れたり、文系理系の選択でも先生や親と話すことで、本当に自分が行きたい道へ進む第一歩を歩むことができました。

もし大阪高校に入学しておらず一年前の自分のままだったら今の自分はなく、ただプライドの高いだけの人間になっていたと思います。

このように人は少し考え方を変えることで大きく変わることができるのだということを実感できました。

『成長できたこと』

松尾 愛華（大阪市立宮原中学校出身）

私は大阪高校に入学して成長できたことがあります。それは、「何事も諦めずにやりきる」ということです。中学生の頃はテストがあってもなかなかテスト勉強に取り組みず、「どうせ無理だ…」と思いつつ諦めることがよくありました。部活に関しても、引退まで残り半年あったのに、二年生で退部してしまうということもありました。

大阪高校に入学して「諦めない」ことの大切さや、やり遂げたときの「達成感」を知りました。例えば、定期テストを受ける1カ月前からテスト勉強に取り組み、良い点数をとれた時の喜びを実感することができました。

私は大阪高校に入学して、たくさんの成長を実感できた1年間だったと感じました。卒業するまでの残り二年間を、さらに成長することができるよう頑張つていきます。

『大きく変化した一年』

目瀬 帆乃香（大阪市立東住吉中学校出身）

私が大阪高校に入学してから変化したことが二つあります。

一つ目は、人前で話したり何かすることに對して抵抗がなくなったことです。私は小さいころから人前で話したりすることが何よりも苦手でした。オリエンテーション学習合宿で自己紹介をしたときに、顔が熱くなったり、全然声が出ませんでした。大阪高校では、授業の中でも、前に出て発表することが多く、最初の頃は慣れなくて大変でした。しかし、経験を重ねていくうちに、人前で話すことに抵抗がなくなり、難なくできるようになりました。

二つ目は、勉強に對する考え方が変わったことです。小学生の頃から勉強面でわからないことがあっても、先生に聞きに行くことはありませんでした。しかし、大阪高校では、先生から教えてもらえる機会が多く、今度は自分から積極的に質問しようという考えに変わっていききました。

この一年間、大阪高校で過ごすことで成長を感じたので、これからもより大きく成長していきたいです。

『憧れられる人』

上東 希香（茨木市立天王中学校出身）

私は「憧れられる人」になることを目標にしてこの一年間を過ごしてきました。そのために、漢字テストや英語の単語テストなどの前日はしっかりと勉強をしてから挑むように意識をし、授業でわからないことがあるときは、授業後に先生に質問をしに行きました。自分なりに「憧れられる人」を目指して行動してきました。しかし、部活や委員会にも属さず、クラスにもあまりなじめないという理由で、学校生活を満足に送ることができていませんでした。その原因として、まだ私にはコミュニティが少なく、「憧れられる人」という目標を達成する以前の問題だということに気が付きました。それから様々な部活の体験に行ったり、生徒会の選挙に出て生徒会に所属したりしてコミュニティを増やすことに努めました。今では新入生歓迎会で生徒会に憧れを抱き、次の生徒会選挙に出てくれる後輩を作ることが私の目標です。まだ私は「憧れられる人」にはなれていないので、新入生歓迎会までにはなれるように日々努力していきます。

『変化』

山野 帆香 (吹田市立高野台中学校出身)

私はこの一年間で変化したことが二つあります。一つ目は「自分への自信」です。これまで私は、自分に自信が持てずにいました。しかし、大高に入学してから、部活動やクラスでの交流を通して自分に自信ができました。たとえばできないと思っていても、私ならできると信じ、自分を応援することができるようになりました。

二つ目は、「人との接し方」です。部活動を始めたとき、周りにはもうグループができていて私は馴染めないのではないかと思っていました。しかし、それは杞憂でした。自分から話しかけてみると、みんな面白い人たちだったので、すぐ馴染めました。このことから、人と接するときに重要なのは一歩踏み出すことだと思いました。

次の一年も変化ある一年にしたいです。

『行動力』

梅本 菜々子 (大阪市内新東淀中学校出身)

私がこの一年間を通して一番成長したと思うことは、行動力がついたことです。私は中学生のころから、運動会などの行事とは好きでしたが人前に立つことは苦手でした。そのため積極的に参加できず、人前に立つことを避けてしまっていました。

高校に入学し、体育祭では応援団に入りました。避けていた人前に立つことも克服し、団員でダンスを踊り、団を盛り上げました。授業での発表も中学の時よりも自信をもってできるようになりました。

二年生ではもっと自分に自信を持ち、人を巻き込めるぐらいの行動力を養いたいです。

『空白』

泉谷 柚奈 (吹田市立高野台中学校出身)

この一年間で私は、自分の中にある空白を少し埋められた気がします。

大阪高校で何の空白を埋められたかというと、自信という空白です。一年前の私は人前に立つことも、発表することも苦手な性格でした。一年経った今でも得意になったわけではないですが、大阪高校に来て何度も経験を積み重ねたことにより自分の心に自信と余裕を持つことができました。これは、私がこれから歩む人生の中で大事なことです。大阪高校に入学したことにより、夢へのスタートダッシュがきれいだのではないかと思っています。

現状は、まだ夢へのスタートを走り出しただけで、足りない空白だらけです。残りの時間で足りない空白をすべて埋められるような高校生活を送りたいです。

『チャンスは平等』

吉田 陽博 (泉大津市立東陽中学校出身)

自分がこの一年で感じたことは、チャンスは平等にあるということです。自分は陸上部で推薦という形で入学しました。ですが、推薦といっても自分の実力とは思っていないくて、中学校の顧問の先生に声をかけていただけからです。高校では自分が一番実力がなく、朝早く起きて練習に行くだけでも精一杯で、正直このまま続けられるのか、強くなれるのかといった不安がありました。

ですが、学校生活を過ごす中で、自分が一番弱いからこそ、努力することが大切であるということに気づき、それから駅伝のメンバーで走ることができたり、人数が限られている合宿にも選んでいただき、たくさんの経験を積むことができて、その分強くなることができました。そして、自分のように実力がない弱い選手でも、それを自覚し努力することで、チャンスは誰にでも平等にあるものだと感じました。

なので、さらなるチャンスを逃さず、それを活かせるように次の一年ももっと努力していこうと思います。

『挑戦や経験』

伊部 真結 (大阪市立新東淀中学校出身)

私はこの一年で想像もしていなかった挑戦や経験をしました。特に私の中で大きく影響したことは、男子バスケットボール部のマネージャーになったことです。入部当初は、マネージャーの先輩が二人いたのですが、三年生だった為に入部して五ヶ月でいなくなっていました。今は、一年生二人で部

活動を頑張って支えています。

約40人を一人でマネジメントしているため、不安がたくさんありますが、顧問の先生方、担任の先生、家族のみんなが支えてくれていてお陰で続けることができていて、本当に感謝でいっぱいです。

他にも、クラスでは代議員をしたり、体育祭で応援団に入って活動したり、中学生の頃に想像していたものよりもたくさんの経験をすることができています。

高校生活での思い出がこれからも増えていきそうなのでワクワクしています。二年生になっても主体的に行動し、多くの人と関わることを目標に学校生活楽しんでいきたいです。

『世界ってとても広い』

竹原 暉人 (吹田市立第三中学校出身)

この一年を振り返ると、たくさんの人と関わる経験を経て、視野がグンと広がった自分がいました。

一年前の自分は、消極的で人間関係も上手くいかず、ダメ人間でした。しかし、大阪高校に入学して二か月目、担任の先生と共にグーツ同好会を立ち上げてからは毎日が楽しくなり、クラス内でも友達がたくさんできて交友関係が広がり、またあるときはオープンスクールで自分の部活を紹介することになり、僕が前に出て発表することになりました。他の部活の代表者は3年生ばかりだったので、とても緊張しましたが、本番では間違えることなく無事発表ができ、自分自身の成長を感じました。

人生には困難が山ほどあると思いますが、失敗を恐れずチャレンジしてみると、世界は必ず広がると僕は信じています。

これからも何事にも前向きに取り組んで学校生活を送ります。

『受け身がちな私が…』

久原 咲愛 (豊中市立第四中学校出身)

中学までの私は、周りからの影響で受け身な性格でした。自分の意見を言っても聞き入れてもらえないことが多く、気が付いたら「きつと耳を傾けてもらえないんだな」と勝手に思い込んでしまい、自分の意見を言うことが怖くなりました。しかし、私は高校生活という新しい環境で受け身な性格から抜け出し、新しい自分になろうと心がけることを決めました。

この学校はオリエンテーション合宿という行事があります。はじめは、「ほぼ初対面の人と泊まるのか」と気分は上がっていませんでしたが、いざ行ってみると、クラスの子は優しい子ばかりで心が温かくなりました。時間を重ねていくにつれクラスになじむことができました。

思い切つて自分が思ったことを言つたある日、その場に居た人達は私が言つたことを快く受け入れてくれました。勇気を振りしぼるといふチャレンジは、とても大切だということを感じました。

努力や思い切りは、目にもえにくいものだと感じますが、実際そうでもなくて、自分自身が行動を起こせば目視できるんだなと思えました。残りの高校生活も様々なことに手を伸ばせたらなと思います。

『この一年間で』

志賀 啓斗 (大阪市立淡路中学校出身)

ぼくは、この一年間でいろいろ変わりました。ぼくが一番変わったなと思うところは、勉強面です。ぼくは中学の時、勉強に対して定期テストの範囲や自分の好きなところだけ覚えておこうと思つていました。しかし、高校に

入つてぼくの考え方が変わりました。中学の頃は漢字テストや小テストに対して、「適当にしておけばいいやろ」と思つていました。高校に入學し二期期の中間調査ぐらいから考え方が変わり、単語などの意味までしっかり考えるようになり、小テストや漢字テストの点数も上がりました。

それらの経験から、ぼくの勉強に対する考えが中学の時より大きく変わり、勉強は社会に上がるまでに必要な知識であり、これからの人生をより良くするためのものという考えに変わりました。この考えから今までに比べて前向きに取り組むことができるようになったり、勉強することの楽しさが分かるようになりました。

これからも、したいことを実現するために頑張つていこうと思います。

『自分が主役』

柘元 拓幹 (高槻市立阿武山中学校出身)

この題名を見るだけでは、調子乗つてるとか自己中心的と思われるかも知れませんが、そういうことはありません。僕は陸上部に入つていて、先生にアドバイスをや何かをしてもらえるのは決して当たり前なことではありません。そのため、積極的に自分で聞きに行つたりする必要があるので。しかし、中々みんな一人で行きにくかつたりするので、その時に自分から積極的に聞きに行き、周りに声をかけていく事で周りも聞きに行きやすくなつたり、全体としての士気が上がります。陸上は個人競技と思われがちですが練習を共に積む仲間と良い雰囲気です。大阪高校として取り組むチームスポーツなのです。それは口頃の生活でも全て自分から積極的に取り組み、周りを良い意味で巻き込んでいく事が、ある程度自由を許された高校生に必要な事だと思つたので、この一年で学んだ事の題名を「自分が主役」にしま

した。

なので、僕は二年生に進級したら次は自分で意識するだけでなく、周りの誰から見ても、主役に見える人になれるように頑張りたいと思います。

『一年間で出会った友達』

浜本 麻也 (大阪市立北稜中学校出身)

私はこの一年間で、最高の友達に出会いました。高校受験で自分の志望通りの高校に行けず、入学前から内心「私の高校生活は終わった」と思っていました。しかし、大阪高校に入学して、最初の行事のオリエンテーション合宿で一緒の部屋の子が声をかけてくれ、すぐに仲良くなれました。そこからみんなと関わるようになってクラスではグループが出来ました。そのグループは、「冗談を言い合ったり一人が落ち込んでいると、誰か一人がなぐさめて、出会って一年とは思えないぐらいの友達に出会えました。

あとは、部活動です。ダンス部ではみんなで協力し合って作品を作ったりして仲が深まりました。私が一時期辞めたいと思ったことがありその時も仲間が支えてくれたおかげで今でも続けることが出来ています。二年生ではより多くの友達に出会って仲を深めていきたいです。

『友達』

道味 結月 (高槻市立第八中学校出身)

私はこの一年で友達の大切さを学びました。高校に入って勉強もむずかしくなり、最初慣れない環境で上手くいかないこともたくさんありました。そんな時に心の支えになったのが友達でした。元気をなくしても学校に行くと友達がいてくれてたくさん話し相手になってくれたり元気にさせてくれました。

私は今、学校が楽しいです。けれど、きっと友達がいなかったら出会えていなかったこんな学校を楽しいと思えていません。この一年で友達とたくさ

ん笑ったり泣いたり話し合ったり、アドバイスし合ったりたくさん所に遊びにいきました。どんなに悲しくて辛くて元気が出ない時も友達というと学校に行くとそんなこと忘れさせてくれるぐらいにみんなは笑顔にしてくれます。そんなみんなが私は大切で大好きです。

私はこの一年間で友達の大切さを改めて知ることができ、友達みんなと出会えたことはとても幸せです。

『努力』

伊藤 和希 (大阪市立三国中学校出身)

私がこの一年で一番頑張ったことは部活です。部活に入った時、あまり本気になれず日々の練習メニューをこなしているばかりでした。しかし、日にちがたつにつれて、自分はなんのために部活をやっているんだと思い、自分を見つめ直しました。すると色々なことに気づきました。自分のため、家族のため、チームのため、応援してくれている人達のため、色々なことに気づくことができたので、これからは何のために部活をやっているんだということ、心の中に刻んで日々努力していきたいと思えます。しかしたまに、自分に負けそうになってしまいうそになる時があります。そのときはもう一度、なんのために部活をやっているのかということを考えて日々頑張っています。

自分ももう少しで二年生になるので、これまで以上に努力を積み重ねていって、また新しいことに気づきたいと思えます。

『成長』

一柳 陽菜 (豊中市立第十七中学校出身)

私はこの一年間で成長したことが主に2つあります。

1つ目は、勉強に対しての姿勢が変わりました。中学校ではあまり勉強せず定期テスト前しか勉強していませんでした。ですが、義務教育が終わって自分の力で何とかしないとイケないと思い、二週間前から勉強し始めると80点など中学のときよりも点数が上がりました。中学生の自分はそんな点数をあまり取ることがなかったのですが、80点を取れたことがうれしかったです。そこから自信ができました。そして、二学期でもその点数は維持できたので、これからのテストも二週間前から勉強することを意識していこうと思います。

2つ目は、コミュニケーションです。私は中学生のころ話すのが得意ではなく、自分から話しかけることや発表がすごく苦手でした。ですが、高校生になって変わろうと思いつき自分から話しかけようと思いました。周りの子は優しく接してくれたのでそこから自信がつき自分から話すことの怖さがなくなりました。発表も周りのみんなが温かく、事前の発表の準備をすること以前よりは苦手ということがなくなりました。だから、これからはテストについても話すこと、発表に関しても、とにかく事前に準備をしていこうとおもいます。

『努力』

永井 美空 (茨木市立西中学校出身)

私はこの高校で和太鼓部に入って、努力は報われる」と実感しました。

もともと和太鼓はやってた事があったので基本はできていたのですが、曲になると難しいリズムや体力面でうまくいかず投げ出したくなることもありました。そんな中で1年生でも大きな大会に出られるチャンスが訪れました。私はその大会のメンバーに選ばれるために今まで以上に練習を頑張ろうと決心しました。しかし、怪我をし、約2ヶ月間見学しかできませんでした。どんどんうまくなっていく同期の姿を見ることができず、すごく悔しかったです。でも、悔しがるだけではうまくはなれないと思い、憧れの先輩の動きを見て研究したり、プロの方の1・2年のレッスンに全部参加し、メモを取ったりしてできることを全てをやり尽くしました。そして復帰してからは1倍自主練を頑張りました。その結果、選抜に受かり、大会に出られることになりました。大会での結果は惜しくも3位でしたが、自分たちの中では最高の演奏ができました。この経験から私は、努力は報われるのだと知ることができました。部活以外のことも努力をしようと思うようになりました。

『この一年を通じて』

山崎 兼申 (高槻市立第二中学校出身)

私はこの一年を通して、自分で考えて行動することが出来るようになりました。特に部活動での陸上競技を通して色々な事を経験しました。この練習はどういった意図でやっているのか、又、この課題を克服する為には何をすべきかななどを考え、競技に費やす時間も自然と増えていきました。中学校の時は、ただただ言われるがまま練習をしていただけでした。その点、この大阪高校で自分なりに考え工夫し行動する力がついてきたと思います。主体的に競技に打ち込むことで走れる距離も伸び、自己ベスト更新にも繋がっていきました。そして何より中学と比べ競技がとても楽しいと感じられる様

になりました。ですがこの力はついてきても自分の課題が多すぎて実際、行動に移しきれない部分が多く残っています。これからも自分の課題と向き合い考え競技力も人間性もレベルアップ出来るように取り組んでいきます。

『これからの自分』

香川 裕樹（守口市立第一中学校出身）

私は大阪高校に入学する前に、高校では、様々なことに挑戦し、積極的に取り組むことを一つの目標としていました。実際に入学後は、夏期講座・コラゼミ・ラボなど、気になった取り組み全てに参加するようにしました。

そんな高校一年の学校生活が、もうすぐ終わりを迎えようとしています。そして、入学時にこのような目標を立てて本当に良かったと感じています。自分の興味や関心を持って、目標達成のために費やした時間は、私に新しい知識や考え方を与えてくれ、将来の可能性を広げてくれたものばかりでした。もともとは「主体的に行動するオモロイ18歳」という学校の理念に影響されて立てた目標でしたが、行動することで有意義な時間が増え、家でじっとしているよりもずっと良かったということが分かりました。

これからも、「様々なことに挑戦し、積極的に取り組むこと」を常に意識して行動していきたいと考えています。

『努力する過程で』

田川 友介（吹田市立片山中学校出身）

私は小学校から続けている陸上競技の能力をさらに向上させたく思い、大阪高校に入学しました。中学校の頃とは違い、高校の陸上競技部の練習内容や雰囲気、質はかなり違いました。自分自身、負荷のかかる練習をしすぎてしまったのか、試合で張り切りすぎたのかは分かりませんが、夏の初めの試合で肉離れを起こしてしまいました。近畿大会出場を目標に必死で努力してきて、その努力が成果として表れ始めていた矢先の肉離れだったので、とて

も悔しかったです。

しかし、大切なのは先を見据えることだと思いました。そこから私は、肉離れについて調べたり、針治療やリハビリをしました。そして、今は完治しています。

この一年で、私は陸上競技がもっと好きになりました。肉離れは悔しかったですが、あきらめないことが大切だと感じる一年になりました。今の私の目標は、全国インターハイの決勝のステージに立つことです。過去は引きずらず、前を向いて毎日を大切にし、誰よりも努力を重ね、私は日本一の陸上選手になります。

『この一年間』

森崎 正彦（吹田市立山田東中学校出身）

私がこの大阪高校に入学して、今までに思ったことを話したいと思います。入学初日、私はとても緊張していました。「クラスにはどんな人がいるんだろう」「みんなと仲良くできるかな」と思っていました。でも、そんな心配はすくなくなりました。クラスのみんなは面白く、優しい人ばかりでした。

そして私は男子バレーボール部に入部しました。バレーは初心者でしたが、親切な先輩に教えてもらっていくうちに、どんどん上達できたと思います。

私はこの一年間で、行動することの大切さを学びました。顧問は「主体的に行動することが大切だ」と言っていました。そこから私は「主体的に行動する」という言葉を胸に生活しようと思ってきました。

この一年間で、周りの人からのアドバイスによって、昔の自分より少し考え方が変わったと思います。二年生になっても、一年生で言われたことを忘

れずに学校生活を送っていききたいです。

『人としての成長』

村島 葡乃実 (大阪市立今津中学校出身)

私がこの一年を通して変化を感じたのは、部活動での経験です。私は中学生のときは部活動に入らず、学校で何かを本気で打ち込むことはありませんでした。しかし、小学校1年生の頃から始めた大好きな和太鼓をするために、高校では和太鼓部に入り、部活に打ち込むようになりました。そして礼儀や仲間の大切さを学びました。部活では楽しい中でも礼儀は徹底されており、私も礼儀や、特に挨拶について常に意識しています。和太鼓部では大会があり、大会に出場できる人数は限られており、選ばれたメンバーだけが出場することになっています。選ばれたメンバーは、選ばれなかったメンバーの分まで頑張ることで、より一層仲間の大切さに気付くことができました。

この一年、部活動を通して私は、人としての成長ができたと思います。このように成長できたのは、周りの人たちが本当に良い人ばかりで、その人たちのおかげだと思います。私はこれからも、私自身の周りの人たちへ、良い影響を与えられる素敵な人になるために、より一層成長していきたいと思えます。

『二つの一年での変化』

三上 璃穂菜 (大阪市立宮原中学校出身)

私はこの一年で変化したことが二つあります。

まず一つ目は勉強についてです。私は中学生の頃は勉強がまったくできず、下から数えた方が早いほどでした。定期テストでは半分も取れず、実力テストでは200点も取れないレベルでした。当時は勉強に全く向き合わず、受

験勉強も放置状態でした。しかし、高校に入学してから少しずつ勉強と向き合うようになり、定期テスト一か月前から少しずつ課題をはじめ、一週間前にはしっかりと勉強するようになりました。その結果、クラス三位まで上がる事ができました。学年全体で数えるとまだ下のレベルですが、少しは変化できたのではないかと思います。

そして二つ目は、将来についてよく考えるようになったことです。昔は動物と関われる仕事に就きたいと思っていただけで、具体的に何も考えたりしていませんでした。しかし、大阪高校ではたくさん将来について考える機会があり、大学や専門学校の違いなど色々なことを学びました。それから私は動物について学べる大学を調べたり、どのような大学に進めば動物と関われる仕事に就けるのか調べ、将来についてよく考えるようになりました。

このように私は一年で大きく変化しました。私が一番大事だと思つのは、自分としっかりと向き合うことだと思っています。これからも自分と向き合い、残りの高校生活も頑張っていこうと思います。

『日々の成長』

樋野 裕斗 (摂津市立第二中学校出身)

私は中学生の頃、あまり勉強が得意ではありませんでした。成績も悪く定期テストも平均点を下回っていました。しかし、あることを意識し出したことで、成績や点数を上げることができました。

それは、日々の努力です。取り組む教科により成果の出やすさは変わりますが、それでも毎日少しずつ取り組む量や時間を増やし、それを続けることで必ず自分の実力が上がっていくことを、この一年で学びました。

また、それは勉強だけでなく、部活や趣味でも同じです。毎日毎日少しずつ

つ続けていくことで、それに応じた実力を身につけることができると学びました。

このことから、私は自分で決めた目標を達成するために、毎日の積み重ねを大切に生活していきたいと思います。

『大きく変化した一年』

竹下 麗也（大阪市立夕陽丘中学校出身）

この一年間を振り返ると、一年で大きく変化した自分と出会えました。私は、中学生の時に勉強があまり得意ではありませんでした。しかし、大阪高校に入学してから、自分の意識が少しずつ変わりはじめました。成績を上げるために頑張ろうと奮起し、毎日少しずつ勉強に取り組みようになり、自分に自信を持てるようになりました。

また、私には夢を見つけないという目標がなく、今までは、自分が好きなことや将来のことをあまり考えていませんでした。しかし、大阪高校で自分になりたいと思える目標を見つけることができました。それは、「誰かの役に立てる人になる」という目標です。誰かのために笑顔を届けることのできる自分を目指すと同時に、周りの人も幸せにできる人になりたいです。まだ、大阪高校に入学して一年という月日しか過ぎしていませんが、自分自身が「大きく変化した一年」でした。

『行動』

坂口 六花（大阪市立柴島中学校出身）

私は昔から人見知りが激しく、高校ではそれを克服することを目標にしていました。成長しなければならぬところは他にもたくさんあるのですが、特に目立った成長もなく、できないところも沢山ありました。

しかし、こんな私にも高校に入学してから、ひとつ、大切な出会いがありました。私はもともと、部活動に入部するつもりはなかったのですが、「何かを得るために行動してみよう」と思い立ち、入部を決意しました。そこに

は、素敵な先輩方や同期の友人が沢山いました。自分の好きなことができる部活で、素晴らしい仲間と出会えて、私はとても幸せな気持ちになりました。これは、行動しなければ絶対になかったことです。人見知りは克服できていなくても、この出会いを通して、私には何かしらの成長があったと実感しています。高校への入学をきっかけに、何か新しいことに挑戦する大切さを学びました。

『学ぶ機会』

亀井 姫奈（大阪市立南港南中学校出身）

私は、この一年間で多種多様な事を学ぶことができませんでした。入学後、周りには初対面の人ばかりで、友達ができるか不安でした。少しずつ慣れていくと、中学校にはいないような雰囲気の人達と仲良くなることができ、他者との価値観の違いを認識することができました。だからこそ、他者を大切にしたい、自分との違いを考えながら、さらに成長したいと思います。

また、学習面では、これまでよりさらに前進することができました。言い換えれば、学習に対するモチベーションを向上することができました。授業中に「あ、そだったのか」という時間を作ること、これまでとは異なる視点で物事を考えることができたからです。

部活では、アーチェリー部に入部しました。中学時代は、「団体」として行動する部活でしたが、高校の部活は「自分」との闘いです。静かな空間で、自分を客観視することができ、苦痛だと思っていた自分との闘いをとてもしっかり感じています。

これからの高校生活をもっと楽しみながら、成長していきたいと考えています。

『成長』

和泉 虹汰（茨木市立東中学校出身）

私の考え方が成長した一年でした。ある本を読んだことがきっかけで自己肯定感を高めることができました。自信が付き、日々の生活を前向きに過ごすことができました。言い換えれば、物事を客観視することができた一年間

でした。

学習に対しても、今まで以上に異なる視点から取り組むことができるようになり、苦痛に感じることなく、楽しく進めることができるようになりました。学習を進めるうえで、色々な視点を獲得することができ、覚える勉強から、楽しむ学習へと変化したことが、これからの私にとってとても成長した点です。

あとがきにかえて

およそ一年前の四月、期待に胸を膨らませながら、新入生一同は入学式に臨んでいました。新型コロナウイルス感染予防のため、すべての新一年生はマスクを着用。しかし、マスク姿から垣間見えるその眼には、まばゆいくらいの輝きがあったことを今でも覚えています。

学年主任として初めて新入生のみなさんに会ったのは、入学前の新入生ガイダンス。そこで私がみなさんに贈った言葉を覚えていきますか。それは「『識』の向上」です。「識」の漢字には、「物事を区別して知る。見分ける。また、その心の働き・能力。」という意味があります。これから訪れるであろう人生の岐路に立った時、より適切な選択ができる人間になってほしい。そのために大阪高校でさまざまなことを学んでほしいと考え、私は新入生のみなさんにこの言葉を送ることにしました。

さて、新型コロナウイルスの影響により、ここ数年で我々の生活は一変しました。オンライン授業やマスク生活がその象徴と言えるでしょう。このコロナ禍においては、限られた環境の中で生活続ける必要があります。そこではこれまでに経験したことのない選択に不安を覚えた人もいます。しかし、言い換えれば、自分自身で取捨選択のできる多様な社会になったとも言えます。未来を切り開くのは自分次第。そのためには物事を見分ける力が必要となるのです。大阪高校の取り組みには、そんな力を身に着けることができるコンテンツ

ツがたくさんあったはずですよ。

今回、『この一年で私は…』を読んで感じたことは、一年生のみんなが大阪高校での新たな経験を通じて、着実に成長を続けているということ。授業やクラブ活動だけでなく、コラゼミやオープンスクール企画運営委員会といった大阪高校独自のコンテンツを、楽しみながら取り組んでくれていることは、大阪高校の教師として喜ばしい限りです。

二〇二三年三月にはマスク着用が緩和され、一年生の素顔をやっと見ることができました。大阪高校での学校生活はあと二年。残りの高校生活で、みんなの笑顔が少しでも多く見られるようにと祈っています。

第一学年主任 木村 隆志



「この1年間で私は・・・」
～第1学年～



発行日 2023年3月31日 発行

発行 大阪学園大阪高等学校
第1学年

発行所 大阪市東淀川区相川2-18-51
TEL. 06-6340-3031

印刷 株式会社 T-PLUS